

# 一人一人が主体的に活動できる学級活動のあり方

——「ハッピーバースデー <sup>ハタチ</sup>20歳!の会」を通して——  
(学校創立20周年)



浦添市立港川小学校  
崎山 嗣一郎

21-3

## 目 次

I, テーマ設定の理由	1
II, 研究目標	2
III, 研究仮説	2
1, 基本仮説	2
2, 作業仮説	2
IV, 研究の内容	2
1, 学級活動の構造図	2
2, 自発的・自治的な集団づくり	3
(1) 活動に計画性をもたす	3
(2) 活動に課題意識や目的意識をもたす	3
3, 個と集団の発達	4
(1) 学級集団の発達段階	4
(2) 個の活動における発達段階	4
(3) 教師の指導・研究の構造図	5
(楽しみの場から喜びの場・よりよい集団活動から社会性)	
4, プラス思考を育成するよさの視点からの信頼関係作り	6
(1) よさの認め合い	6
(2) よさを認め生かす集団活動形態	6
(3) よさを認め合う「場」の工夫	7
(4) 客観的児童理解の方法と活用	7
V, 研究の実践	8
1, 指導計画	8
2, 検証授業	8~10
3, 本実践の考察と結果	11
(1) 考察	11
(2) 結果	11~15
VI, 研究の成果と課題	16
1, 研究の成果	16
(1) 自治的・自発的活動を図るということ	16
(2) 個と集団の充実と向上を図るということ	16
(3) よさを認め合う信頼関係の育成について	16
2, 今後の課題	16
3, おわりに	17
〈参考・引用文献〉	

# 一人一人が、主体的に活動できる学級活動のあり方

— 「ハッピーバースデー 20歳！」の会を通して —  
(学校創立20周年)

浦添市立港川小学校 崎山 嗣一郎

## 【要約】

本研究は集団活動の中で、一人一人が、主体的に活動できる学級活動のあり方について探求した。第1の視点、学級活動における自発的・自治的な活動について。第2の視点、個と集団の充実と向上を図るための実践について。第3の視点、プラス思考が育つ、よさを認め合うことを通して築く集団の信頼関係の育成と心理機能について。以上3つの視点から研究を進めた。

その結果、興味・関心から追求した活動過程において、一人一人が意欲的に取り組み、いろいろな場面でお互いのよさを認めあう信頼関係の育成がみられ、一人一人が主体的に活動できる学級活動となった。

【キーワード】 □学級活動 □興味・関心 □主体的活動 □個と集団 □信頼関係

## 1. テーマ設定の理由

集団活動における「話し合い」は、児童の社会的自立に向けての第一歩である。一人一人の人間の主体性を認めるとき、そこで生じた問題なりの意見の違いをどう克服するかである。極端に言えば「話し合うか」(共生)「無視するか」(逃避)「ケンカするか」(孤立化)等である。授業不成立と言う言葉が生まれるように今日の個人尊重・価値観の多様化の中で、個々が信頼関係を育ていかにして個人として充実した生活を過ごし、よりよい集団活動を形成する話し合いができるかが、課題の一つだと考えられる。

学習指導要領の総則において「生きる力を育む」ことを目指している。特別活動は、学級集団による様々な体験学習を通して、生きる力に必要な豊かな人間性や社会性を育成する事を目指し、よりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとしている。その中でも、学級成員を主とする、学級活動では、直接体験活動を通して児童の主体的な活動を中心に生活の充実と向上を図る活動が大切である。

児童の主体的な活動とは、児童一人一人の気付きや興味・関心を大事にし、児童相互の好ましい人間

関係や児童と教師、児童間の信頼関係が育成されながら集団活動が行われることである。

安心して存分に自分の力を発揮できる支持的風土が育った学級集団であれば、児童一人一人が集団に対して所属感や意欲が、より高まり主体的な活動が期待できると考える。

これまでは、子どもとともに課題意識をもってクラスの問題に気づき、解決方法を考え、実践していくことを目指してきた。ところが、多様化する個々の価値観の中においては、集団の自主性や主体性を目標に、集団全体の成果が優先されるような活動になると、友達の活動やよさを認め合うより妙なテレを感じたり、周りの目を気にし、例え集団による成果が出ても「自分は、おもしろくなかった」等の声も出てきた。

それは、一人一人が主体的に活動する学級活動が十分でなくややもすれば、集団の中に個人が埋もれてしまったと考える。

そこで、友達のよかった事柄や感謝の心を表せる個々のカードポストを設置し、学級の中でお互いのよさを認め合うプラス思考を育み、子ども一人一人の気付きや興味・関心を大切に活動を広げ、学級活

動の中に一人一人が存在できる居場所を作ると、生き生きと主体的に活動できるよりよい学級活動になるだろうと考え本テーマを設定した。

## II. 研究目標

一人一人の子どもが、個性を伸ばし主体的に活動でき、共に認め合えるよりよい学級活動の発達を育成する。

## III. 研究仮説

### 1. 基本仮説

学級活動において、一人一人の興味・関心やお互いのよさを認め合う場を創意工夫することにより、意欲的に活動し信頼関係を育むことができ、主体的に取り組む学級活動となるであろう。

### 2. 作業仮説

#### 仮説1

・話し合い活動の意義と基本的な方法を話し合い、司会団を輪番制にするとより自分の問題だとして捉

## IV. 研究の内容

### 1. 学級活動の構造図

学級活動を内面的にプラスの方向に高めていくのが、よさの視点からの心理機能と位置づけた。

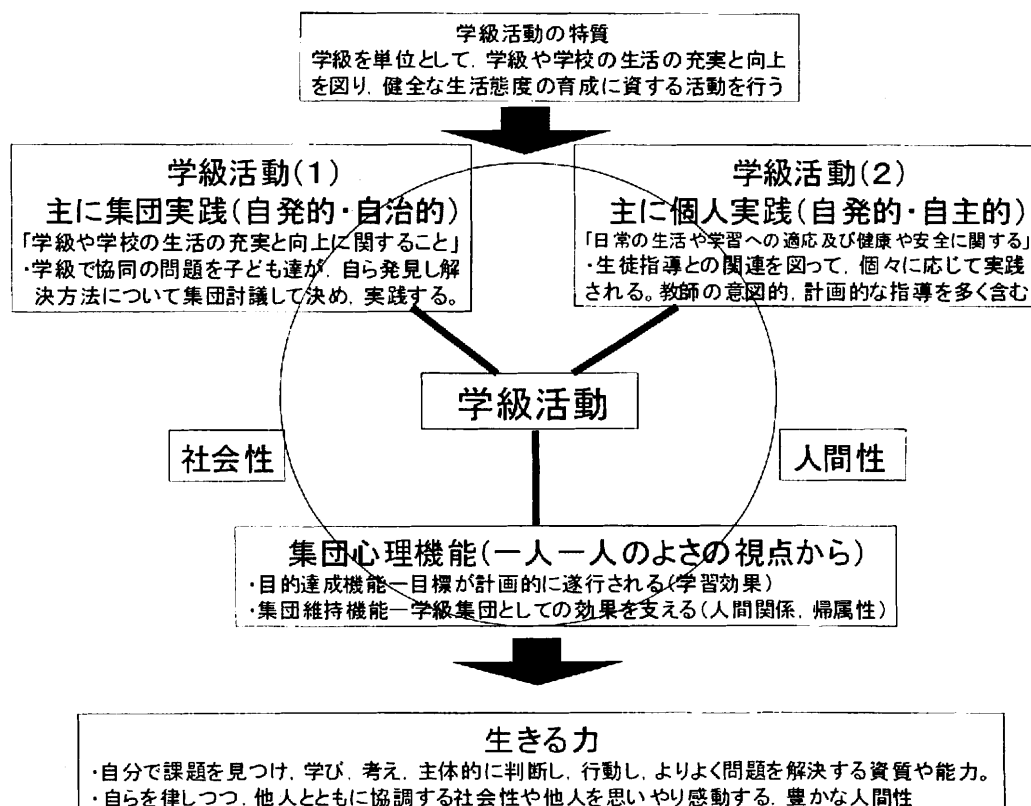


図1 学級活動の構造図

え役割の交替も積極的に行われ自発的・自治的な活動になるであろう。

#### 仮説2

・活動の発達段階における子どもの気付きや興味・関心からくる活動を大切にし、共同して課題解決を練り上げることにより、よりよい集団活動へと発展するだろう。

#### 仮説3

・ショートホームルーム等で、友達のよさを発見した「場」を設定することで学級内における好ましい信頼関係が、育成できるであろう。

#### 仮説4

・話し合い活動での自己評価カード(太陽カード)を作りどんな所が良かったのか、助けてもらったかをまとめ・整理すると、自分の良さに気付き生かすことができ、次へのよりよい活動意欲へとつながるであろう。

## 2. 自発的・自治的な集団づくり

(1) 学級活動の意義や進め方をみんなで共有し、見通しを持たせ目的意識を高める。

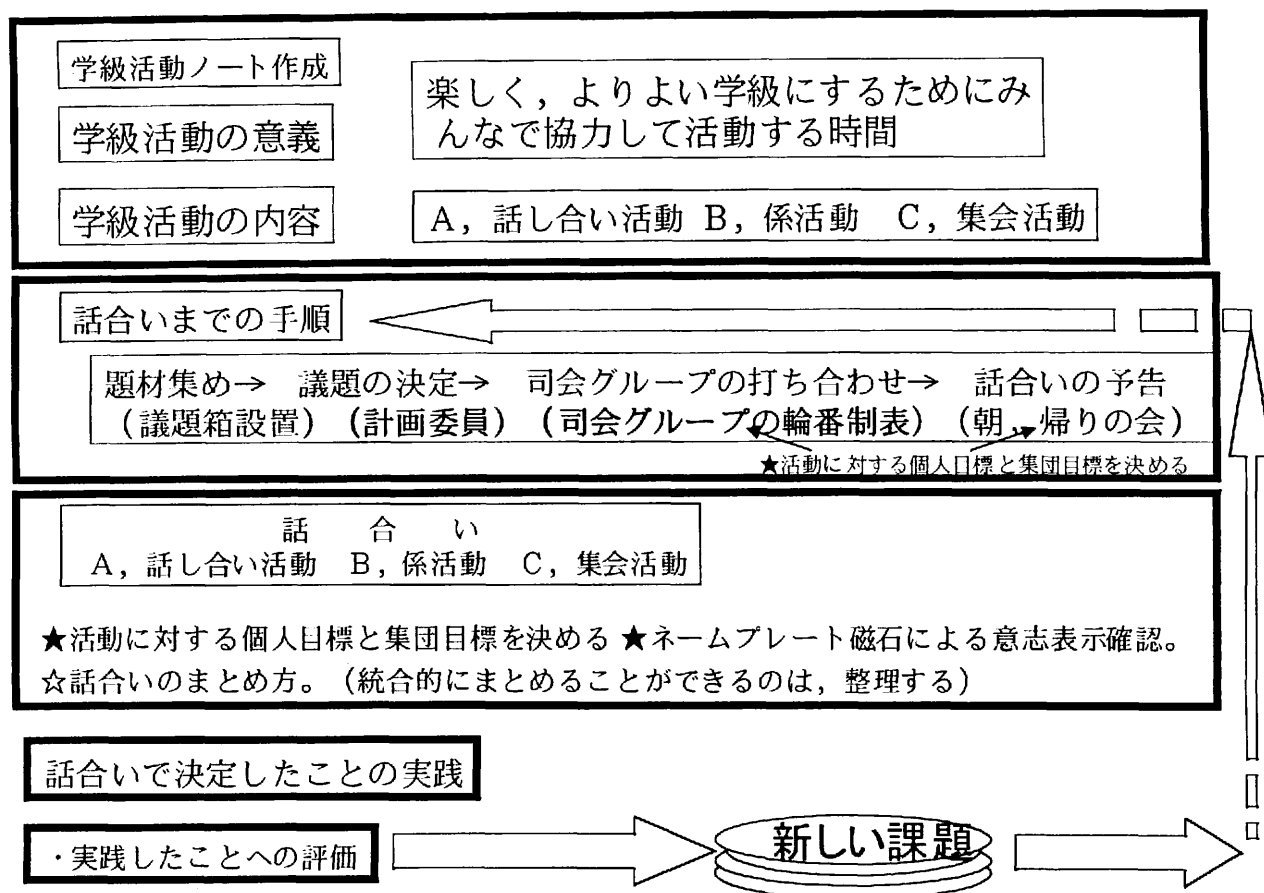


図2 活動の全体の流れ

(2) 活動に計画性をもたす手だて

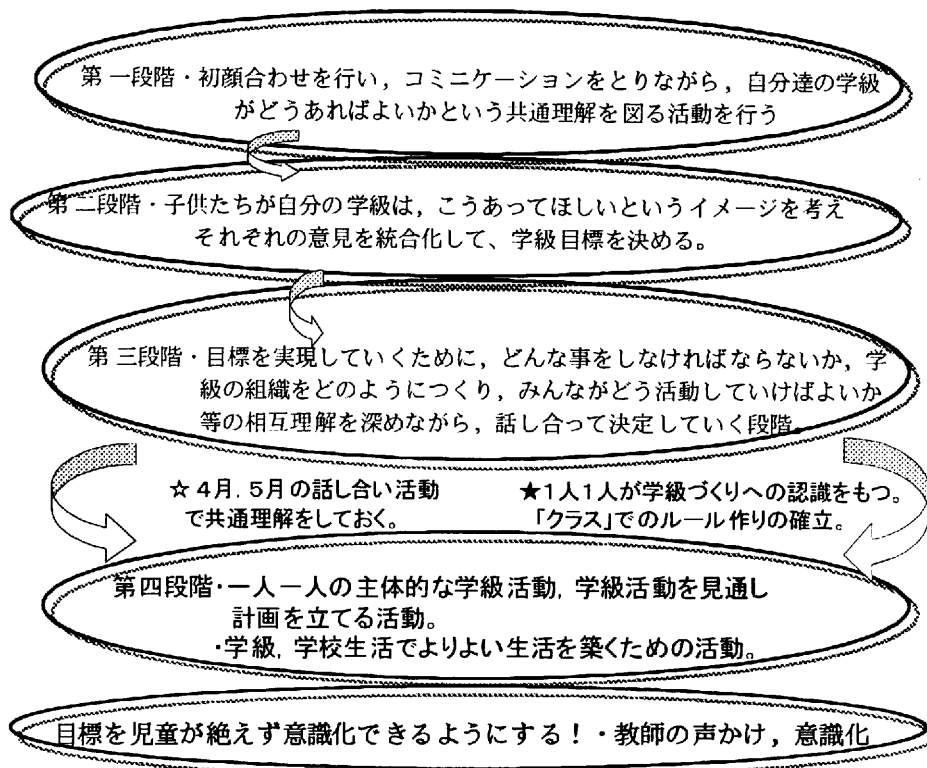
- ①学級全員が司会団に入り、司会、副司会、記録(黒板・ノート)の構成で、男女の人数をバランスよく考えて五つか六つぐらいのグループに編成する。
- ②前もってそれぞれの役割について話し合い、司会団の編成グループ表を張り出し子ども一人一人が付せん紙に名前を書いて、期日までに自分のやりたい係りや入りたいグループに貼り編成を行う。
- ③今後の学級活動における内容を知らせる。活動順番は、それぞれの司会団に任す。(1回再編成)

(3) 活動に課題意識や目的意識をもたす手だて  
(個人目標と集団目標)

- ①学級活動において、実践への課題意識や目的意識を高めるために集団の目標と個人の目標をもたせて話し合い活動を進める。
- ②めあてカードを持ち「自分なりのめあて」に向かって努力できる手がかりとして、事後活動において、充実感や次の活動意欲と自信を味わえるように支援する。

### 3. 個と集団の発達

#### (1) 学級集団の発達段階



- ① 第一段階から第三段階で、集団活動のベースができ第四段階において一人一人の主体的な学級活動の実践が行える。
- ② 教師は、各段階において児童が目標に対して絶えず意識化できるように振り返りカードや声かけを行う。

図3

#### (2) 個の活動における発達段階

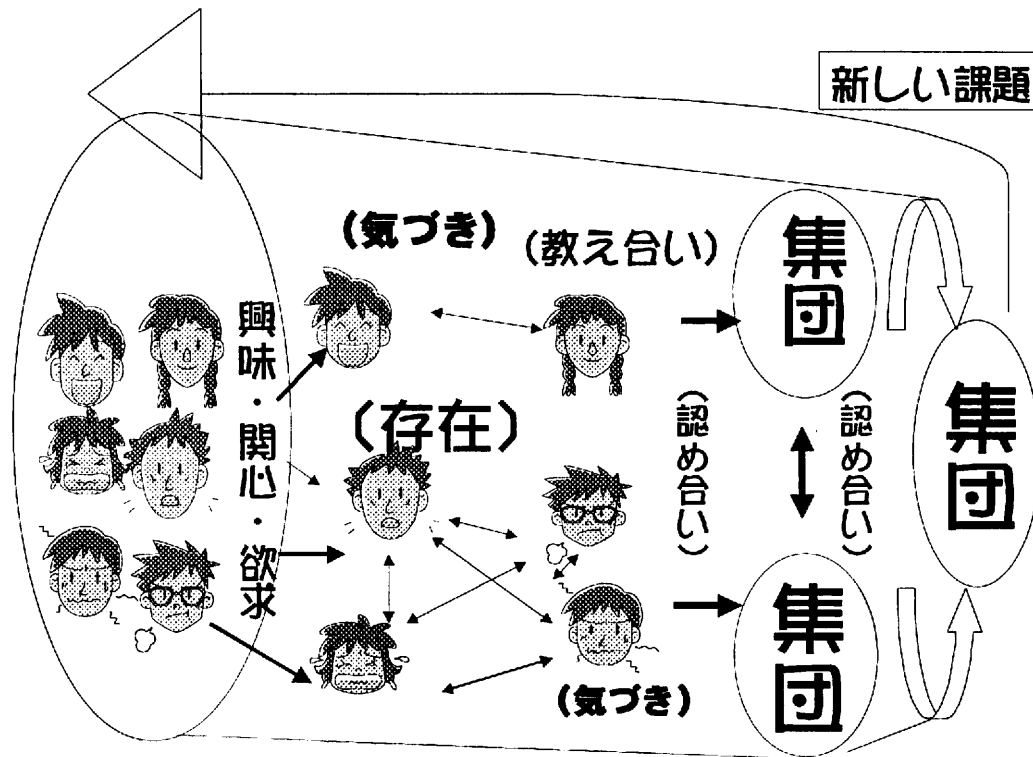


図4

課題に対してそれぞれ個人の興味・関心から集団ができ、お互いの考えや問題解決方法によって集団が形成されていくと考える。その集団の中で課題に対して、自ら考え、判断、行動し生き生きと意欲的に活動する。活動の過程において、気づきや認め合いが生まれ、自分の居場所や活動に対する意義や喜びを知り自己実現を目指すようになると、一人一人が主体的活動ができるようになる。

そこでは、友達からの影響で自分を変えることがあると同時に、友達を変えさせたりして、集団全体の性質にも大きな影響を与えるのが、一人一人が主体的に活動できる学級活動のあり方である。

そしてその活動は、次のよりよい活動へとつながるために、新しい課題が個人に戻され、らせん上に発達することで自主的、実践的活動が展開される。

### (3) 教師の指導（楽しみ場から喜び場・

よりよい集団活動から社会性）

作られた場だけではなく、児童の興味・関心、気づきを大切に、児童が自ら考え、行動しないと活

動できない場を考える。そこから発展して、学級や学校全体にもよりよい影響を与えるようにする。活動の過程において、児童がお互いによりよい活動とは、どんな事か教師とともにイメージし、話し合う雰囲気の場合がなければ一人一人が主体的に活動できる学級活動は、生まれてこないと考える。

そこで、教師の支援として、一人一人の児童の興味・関心、気づきから次に何をやりたいのか、やるべきかを見つめさせる。そして、次の段階へ思考する「場」などのタイミングを計ることにより、一人一人が主体的に受けとめ活動できる学級活動へとつなげる。その活動の過程において、楽しみや期待の「場」からお互いが認め合う「場」やうれしさが生まれる「場」に高めていく。活動を共有し充実感を味わうことで、次へのよりよい集団活動へと発展する。そのような集団において、練り合いや積み重ねにより、学級や学校・地域と視野が広がり、その体験で、社会性や人間性を培い生きる力を育む事にも結びついていくと考える。

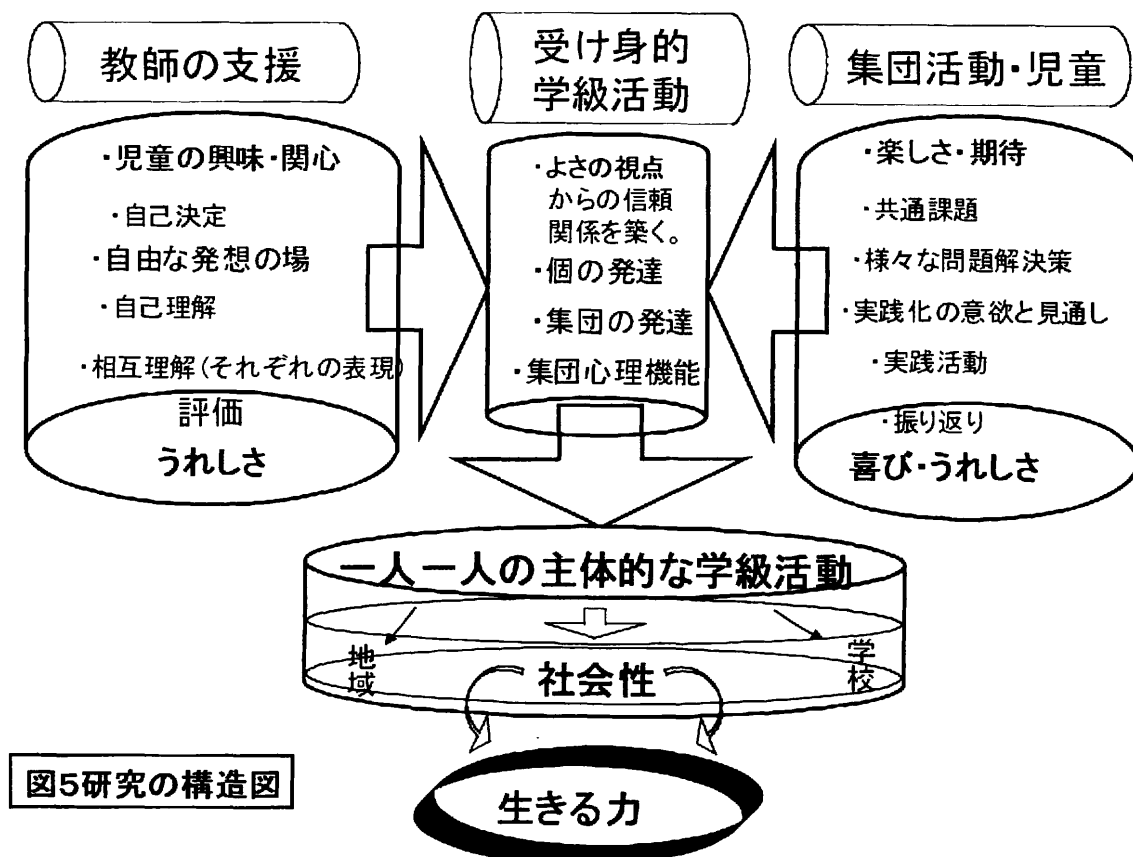
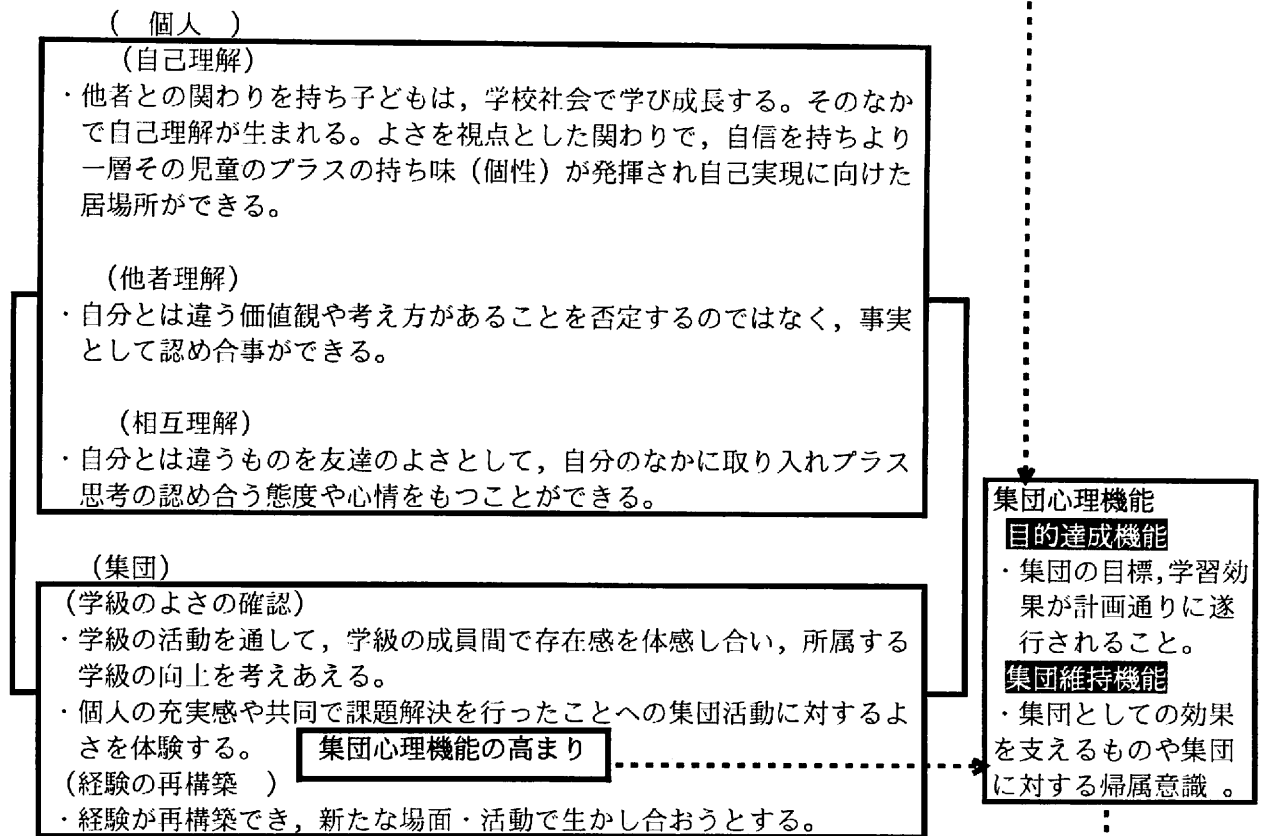


図5 研究の構造図

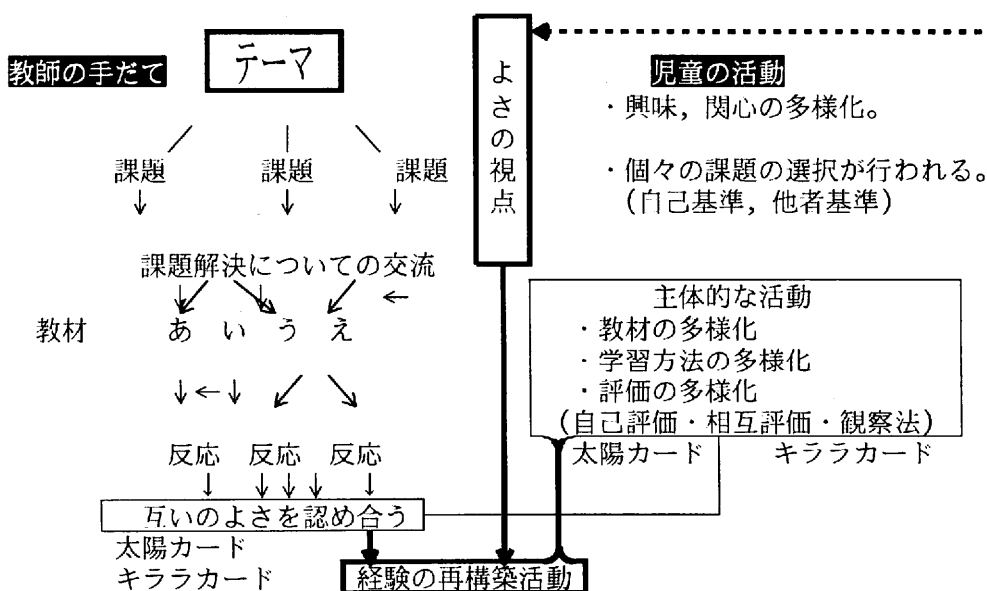
#### 4. プラス思考を育成するよさの視点からの信頼関係

(1) よさの認め合い・プラス思考

→個人や集団の心理機能を高める手だて



(2) よさを認め生かす集団活動形態





(3) よさを認め合う「場」の工夫

①ショートホームルーム（帰りの会）

- ・友達によかった点や助かった点を帰りの会で発表し  
右記のカードに記入しそれぞれの個人ポストにいれる。  
(集団の中での認め合い・児童間の認め合い、**他者理解**)

★キ☆ラ☆ラ☆☆☆カード★ 1	
月	日 曜日
☆	君・さんへ♂♀
発見	ありがとう。すごい!
φ _____ _____ _____	
より	

②活動の中で

- ・教師が、一人一人の一連の活動をよさの視点から観察法で記入する。
- ・一連の活動のなかで、よさの視点から気づいたこと等をグループや学級全体で認め合う。

③ 自己評価 (太陽カード・**自己理解**)

- ・活動を振り返りカードにより再認識させる。  
活動を通しての**成果としての自己評価**をさせ、  
実感につなげる。  
このような自己評価によって、自分の学びに対する自信を深め、新たな課題に対する意欲や工夫が生まれて来ると考える。

太陽カード	名前
★ハッピーイバースデイ 20歳!での役割	
《 _____ 》	
☆☆今日の活動は、どうでしたか。	
よくできた まあまできた うまくできなかった	
★感想(自分が良かった事・がんばったこと・助かった事)	



(3) 客観的児童理解の方法と活用

①< ソシオメトリー >

集団の関係構造への手だて

あ、ソシオメトリーによる量的測定を活用により児童間の集団における関係構造を分析する。

②< アンケート >

一人一人の学級集団に対する意識の実態を把握する。

い、様々な集団活動や直接体験を行った後、子ども一人一人の人間関係がどう変わってどのように指導していくかのかの1つの手がかりとする。

## V 研究の実践

### 1 指導計画

教科	月日	単元名	学習目標
特活・学級活動	4, 30	・初顔合わせ ・個人ポストの設置と説明 ・アンケート ・ソシオメトリック・テスト	・出会いを大事にする。 ・これからの学習を説明する ・客観的児童理解
裁量の時間	5, 13	・話し合い活動の仕方 ・計画委員との話し合い	・学級活動の意義と話し合い活動の進め方, 聞き方, 話し方 ・司会グループの役割分担と話し合いの進め方。
特活・学級活動	5, 14	・学級目標を決めよう	・自分達の願いやよりよい学級になるような学級目標を決める。 ・自分達で守れる目標を立てる。
道徳	5, 20	・代表委員からの連絡(20周年のテーマ決め) ・21,先輩の心を受け継いで(よりよい校風)	・20周年を迎えてよりよい校風を築く心情を育てる。 ・自分達の学校を見つめる。どんなところがよいのか。
昼休み時間	5, 25	・計画委員との話し合い	・前の話し合い活動の振り返り。 ・司会グループの役割分担と話し合い活動の進め方
特活・学級活動	5, 27	・話し合い活動(ハッピーバースデー二十歳にむけて)	・一人一人が主役になるように自分のやりたいことを決め,みんなにハタチの会を祝おう。
図工・国語	6, 3	・自分達の表現製作	・思いを込めて自分の作品を作る ・友達同士,グループで話し合いながら自分達の作品を作る。
特活・学級活動	6, 8	ハタチ ・ハッピーバースデー二十歳 検証授業	・自分のやってきた活動を自信をもって発表する。 ・ほかの発表のよい所を認めながら会を祝う。
国語	6, 10	・ハッピーバースデー二十歳の活動を振り返って	・これまでの活動を振り返り作文をかく。(よさの視点から) ・太陽カードの発表

### 2 検証授業

## 学級活動指導案

平成11年6月8日(火) 2校時

港川小学校 6年2組 男子20名女子17名

授業者 崎山 嗣一郎

### 1, 題材名

「ハッピーバースデー 20歳！」

(学校創立20周年) (11時)

### 2, 本時のねらい

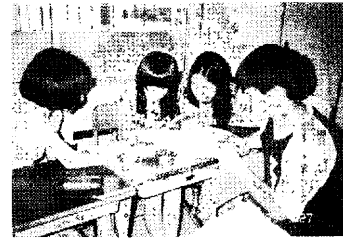
- ・一人一人が自分の出番を作り,進んで活動しよう。
- ・友達や自分のよさを見つけ認め合おう。



### 3, 題材設定の理由

学級編成替後、間もない時期に行われる集会活動である。学級目標も自分達で決め、お互いが気心を知り合った頃、よりよい集団作り（学級作り）を目指した楽しく充実した学級集会を体験させたいと考えた。

そこで、一人一人が自分のやりたい課題に取り組み、活躍する場を設定し、互いによさの視点から認め合うことで、仲よしグループの中の認め合いだけでなく、学級全体に広がるよりよい人間関係が生まれ相互理解が築かれるようにしたいと考え本題材を設定した。



### 4, 児童の実態

#### ソシオメトリーの構造マトリクスから

- (1) 男子の第1グループは10名という大きな下位集団になっている。
- (2) 女子の下位集団がきれいに4つに分かれている。しかも相互選択でより強い結びつきとなっている。また、第3と第4グループの下位集団は、互いに意識していることもなく交流の場が必要である。
- (3) 周辺児（男子2名・女子1名）が3名いる。選択されない理由としては、悪口を言う、自分勝手等があげられていた。また、孤立児が男子2名いる。

#### 質問紙（アンケート）から（そう思わない・ふつう・とてもそう思う）

- (1) 男女仲よしですかの質問に対して、そう思わない・ふつうが34名もいてまだとけ込んでいない様子がうかがえる。
  - (2) 学級の雰囲気に関する質問にたいしては、学級の約3分の2の児童がいい方向（とてもそう思う）という回答をしていた。
  - (3) 学級集団が個人に対して親切的な雰囲気であるかの質問では、とてもそう思うが11名に対して個人（本人）が学級集団に対して親切にしているは、5名になっている。個々の信頼関係を築かせる場作りが必要だと考える。
- ・これまでの事前活動から考えると一人一人は、とても前向きな姿勢で活動するが全体での場での発言や発表では、特定の児童の他は、いい考えを持っていても表現することにためらいがちである。
  - ・話し合い活動における課題選択（価値選択能力）の場面では、内容より仲のよい友達に合わず児童が、数名見られた。
  - ・クラスの全体の雰囲気は、とても素直な感じがする。その素直さを大事によりよい活動や考えを育ていきたい。

## 6, 本時の展開

	子供の活動	教師の支援	評価の観点
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハッピーバースデー20歳」の会を始める。</li> <li>1, はじめの言葉</li> <li>2, 先生の話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この会のねらいを確認する。</li> <li>・相互評価カードを配る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい集会活動にしようと関心を持ち意欲的に参加していたか。(関心・意欲・態度)</li> </ul>
展開 31分	<p>(よさの視点からの評価の記入) (相互評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3, 20歳の歌</li> <li>4, 学級のテーマ発表</li> <li>5, それぞれのシンボルマーク</li> <li>6, ゲーム</li> <li>▼ 7, タイムカプセル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会が会をスムーズに進められるようにする。</li> <li>・発表者が発表しやすいうように共感的に見て声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが自分の役割を考え集会に参加しているか。(思考・判断)</li> <li>・自分の考えを的確に表現しているか。(技能・表現)</li> </ul>
まとめ 11分	<ul style="list-style-type: none"> <li>8, 先生の話</li> </ul> <p>(よさの視点からの評価の記入) (自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9, 終わりの言葉</li> <li>・会を閉じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短くそれぞれのよかったことを伝えこれまでの活動を振り返る</li> <li>・自己評価カードを書かす。</li> <li>・相互評価の発表</li> </ul> <p>「一人一人が認め合いよりよい学級に進化してほしいという願いで授業してきました。」とまとめ伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の活動をきちんとまとめられたか。(基礎, 基本)</li> </ul>



## 7, 評価

- ・一人一人が自分の出番を作り, 進んで活動できたか。
- ・友達や自分のよさを見つけ認め合うことができたか。
- ・観察法, 自己評価カード, 相互評価カード。

## 8, 事後指導

- ・一連の活動を振り返っての作文を書く。
- ・自己評価カードの発表。

### 3 本実践の考察と結果

#### (1) 考察

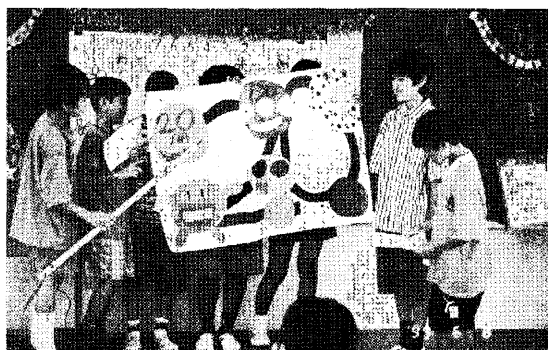
発表の時の子ども達の姿は、友達の発表を真剣な眼差しで見て聞いて共感し、自分の発表の時は程良い緊張感をもって精一杯に頑張っていた。

事前活動では、どの子も意欲的に取り組み休み時間や放課後までグループのみんなが残り作品を丁寧に仕上げている。そのため、作品一つ一つにその子やグループの思いや願いが込められ工夫されていた。

話し合い活動の中で生活科にあるようなお店を開いてクッキーを作りたいと最後まで譲らなかった子が、テーマのグループに入り、クッキーの上にテーマの文字を入れてみんなに配っていた。

自分達のイメージどおりにはいかない課題にたいしては、専科の先生にお願いして教えてもらい作品を完成させていた。

一人一人が役割を分担し互いに協力し合い、自分達の方で「二十歳の会」を成功させたことが、自分自身の充実感や学級や学校に対する所属感が高まったと思う。このような体験が、自信や活動意欲となり次へのよりよい集団活動へとつながると考える。



#### (2) 結果 事後活動(児童の作文から抜粋)

・Y男一・・・発表でぼくは、シンボルマークを持つだけだったけど、とても緊張しました。発表が終わるとまだ少し緊張していたけど、苦勞してシンボルマークを作っていたので、発表がちゃんとできたので、良かったと思いました。二十歳の会は、緊張していたけど楽しかったです。

・A 男一・・・テーマは、「ハッピーバースデー二十歳未来へ向かって レッツゴー」だった。そして給食時には、テーマの文字入りのクッキーまで配ってくれた。どうもありがとう。・・・

Nさん一・・・この日がまちどろしかったです。・・・「聞いてくれるだろうか？」

歌ってくれるだろうか？」

この気持ちで不安でした。・・・

クラスみんなや先生方は、拍手をしてくれました。とてもうれしい気持ちになりました。

「二十歳の会」っていいな。みんなの心がひとつになったような気がしました。私が多分20才になったら、夢を追いかけていると思います。

はやく20才になりたいな。



教師の観察法による評価

	番号	・事前, 当日の活動の様子
歌	21	話し合いのまとめやくを最後までやる
	22	歌を楽しく大きな声で歌った。
	26	作曲を中心になってやっていた
	30	作詞を中心になってやっていた
	33	ダビング操作(機械)を扱っていた
テーマ	24	くす玉作りを一生懸命にやる。割る役
	31	クッキーを作りチョコでテーマをかく
	32	全体の仕事を責任をもって仕上げ
	34	くす玉作りを創意工夫して仕上げた
	35	テーマの発表をおこなった
	36	全体の話し合いをまとめた
	4	くす玉設置やテーマ書きをした
シンボルマーク	23	司会の役を落ち着いてこなしした原稿準備
	27	羽ばたくイメージを大事に作品を作る
	28	楽しく意欲的に作品作りをしていた
	29	思いを込めて作品を仕上げている
	37	発表の練習を何度もやりきちんと発表
ク	25	工夫しながら思いを込め作品が仕上がる
	8	友情, 愛情, 感情のキャラクター作る
	12	男女差別なく話し合いをまとめ作品作る
シンボルマーク	5	沖縄をイメージした作品をつくる
	10	20周年をイメージ, 大きな声で発表
	14	ウルトラマン, 安心や勇気を与える
	15	発表の練習を何度もやりきちんと発表
	17	7人の作品を合わせ20周年の数字を
ク	20	責任をもって作品作りをする
	16	工夫して落ちつき発表する
ゲーム	2	活動に意欲的に取り組む
	1	グループの活動の中心となる
	3	楽しく活動に参加する
	6	ゲームの準備をしっかりとやった
	7	自分の役割を考えてやってる
タカ	9	活動の中心となり本を借りてきて計画
	13	ゲームの説明をわかりやすく行う
イブム	11	活動の中心, わかりやすく意義を説明
	18	カプセルを工夫して作る, 説明表,
	19	始め意欲的に活動。助け合いを知る

子どもの自己評価

太田カ-ト	名前	H
(1997)		
★ハッピーバースデー 20歳1での役割		
( 歌 )		
☆☆今日の活動は、どうでしたか。		
よくできた	まあまあできた	うまくできなかった
★感想(自分が良かった事・がんばったこと・助かった事)		
みんなの発表も静かにきけたし歌も今まで		
努力したせいかバにせにのて良かった。(す)		
歌をつくるのは、けっこう楽しかった。		

みんなの発表も静かにきけたし歌も今まで努力した成果がだせたのでよかったです。歌を作るのは、結構楽しかったです。

太田カ-ト	名前	K
(1997)		
★ハッピーバースデー 20歳1での役割		
(シンボルマーク)		
☆☆今日の活動は、どうでしたか。		
よくできた	まあまあできた	うまくできなかった
★感想(自分が良かった事・がんばったこと・助かった事)		
みんなの発表はちゃんと聞いたし		
感想も聞いた事。		
発表のしかたはじめても、よかったと思う。		

太田カ-ト	名前	A
(1997)		
★ハッピーバースデー 20歳1での役割		
( ゲーム )		
☆☆今日の活動は、どうでしたか。		
よくできた	まあまあできた	うまくできなかった
★感想(自分が良かった事・がんばったこと・助かった事)		
とってもおもしろかった。		
みんながまがしているのを見ると自分もやりたくなつた		
しみんな楽しんでるなと思った。		

子どもの  
相互評価

☆キラカード☆ 2 ☆ ☆ 名前 M

グループ名	名前	よかったところ・すごいこと・発見
ニ 十 フ レ ン ス の 歌 ズ	玉城 あずさ 金城 ありさ よぎ ゆかの 平田 望 徳村 理紗	(歌を聞いての感想) よく、こんな歌つく来た な、と思った。
テ ー マ	比嘉 恵 宮千 真奈美 宮城 千穂子 新城 麻理子 石垣 和泉 石川 真紀 上地 圭介	(テーマ発表への感想) すごいテーマをよく つく来たな、と思った。
シ ン ホ ル マ ー ク	○美庭 まみ ○藤濱 円 ○平良 愛美 ○藤村 友希恵 ○金沢 愛美 ○高橋 美帆 ○知名 祐弥 ○原島 比麻貴 ○長瀬 賢人 ○玉塚 朝達也 ○石川 一久 ○花城 誠佑 ○上地 健浩 ○丹原 拓 ○又吉 慶亮	(シンボルマークへの感想) ●えがすこくうま かた。  ○個人個人では、 ひょうしてすごか た。
グ ー ム	比嘉 和真 山城 真央 赤藤 洋平 金城 裕真 下地 健太 玉城 大志 砂川慶之輔	(クームへの感想) とても楽しかった です。
・タイムカプセル	阿波連良尚 糸数 征徳 兼次 義也	(タイムカプセル企画の感想) 2002年がまじら しい。

☆キラカード☆ 2 ☆ ☆ 名前 M

グループ名	名前	よかったところ・すごいこと・発見
ニ 十 フ レ ン ス の 歌 ズ	玉城 あずさ 金城 ありさ よぎ ゆかの 平田 望 徳村 理紗	(歌を聞いての感想) よくここまで長い歌を 上手につくれたなと 思った。
テ ー マ	比嘉 恵 宮千 真奈美 宮城 千穂子 新城 麻理子 石垣 和泉 石川 真紀 上地 圭介	(テーマ発表への感想) ちょっとドキドキしたけど しぼいしなくて よかった。
シ ン ホ ル マ ー ク	美庭 まみ 藤濱 円 平良 愛美 高橋 友希恵 金沢 愛美 高橋 美帆 知名 祐弥 原島 比麻貴 長瀬 賢人 玉塚 朝達也 石川 一久 花城 誠佑 上地 健浩 丹原 拓 又吉 慶亮	(シンボルマークへの感想) おもしろいマー クだな、と思った。  一つの元にみんなに意 味があるなんてすごい と思った。  一つ一つかわいいマー クだ、と思った。
グ ー ム	比嘉 和真 山城 真央 赤藤 洋平 金城 裕真 下地 健太 玉城 大志 砂川慶之輔	(クームへの感想) さかすのはむすかし かた。
・タイムカプセル	阿波連良尚 糸数 征徳 兼次 義也	(タイムカプセル企画の感想) ほりかした時、みんな いっしょにわらっているの かたのしみです。

客観的児童理解<ソシオメトリー>

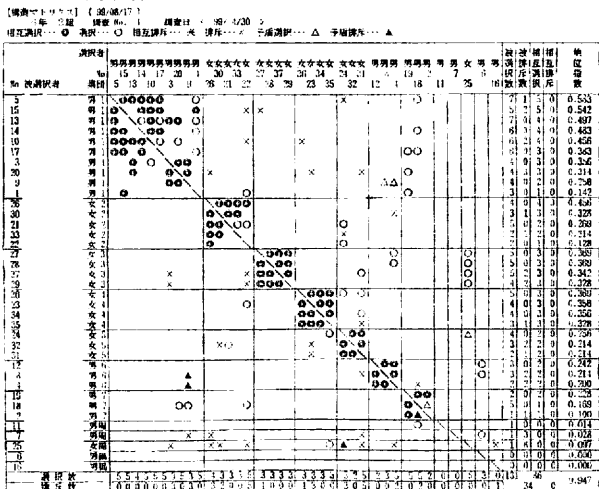
全体として

女子は、4つの下位集団から2つの下位集団に、  
男子は3つの下位集団から2つの下位集団と変化し  
ている。このことは、学級の各集団が大きな集団へ  
とかたまりつつある。その過程の中で、まだとけ込  
めない児童が、周辺児として現れてきている。

抽出児

4月は、周辺児、下位集団に入っていた2人の児

4月実施

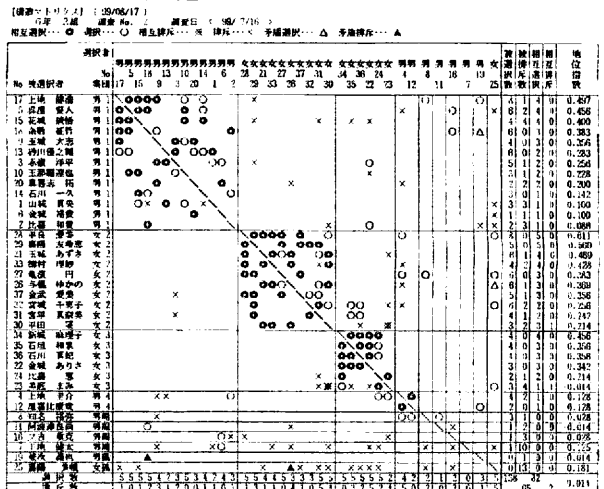


童が、7月になると孤立児として浮かんでいる。

原因として自己中心的、すぐケンカするなどの理  
由が書かれており、今後感情面に配慮した個別指導  
が必要である。

また、4月に孤立児が2人いたが、2名の児童は、  
下位集団に属したり周辺児になり集団と好ましい関  
係を築き始めている。

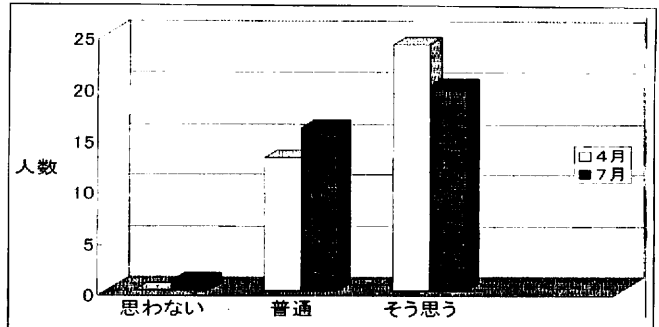
7月実施



アンケート（4月30日、7月16日実施）

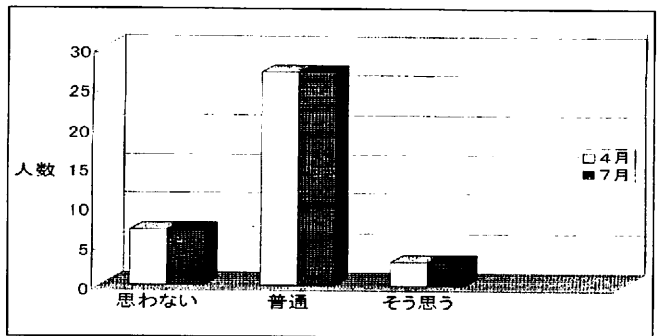
1. あなたのクラスは、楽しいですか。

	思わない	普通	そう思う
4月	0	13	24
7月	1	16	20



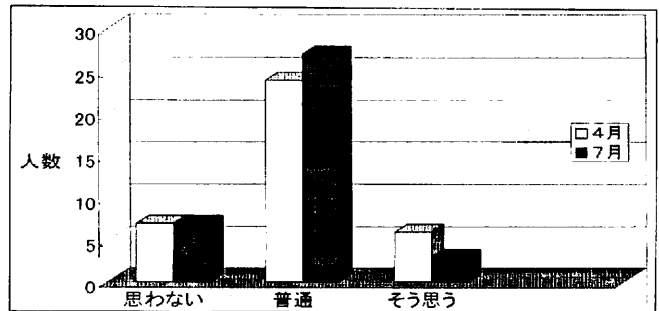
2. あなたのクラスは、男女仲良しですか。

	思わない	普通	そう思う
4月	7	27	3
7月	7	27	3



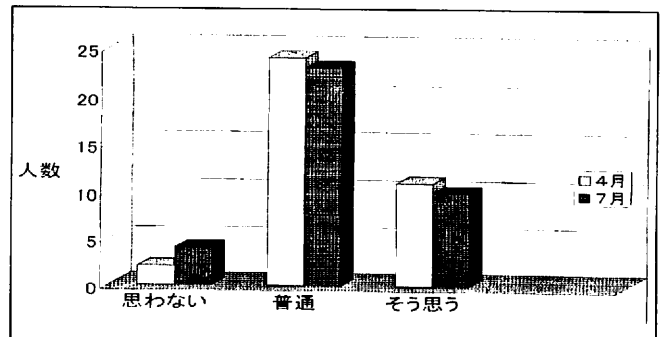
3. あなたのクラスのひとたちは助けあっていると思いますか。

	思わない	普通	そう思う
4月	7	24	6
7月	7	27	3



4. あなたのクラスの人たちは、みんなあなたに親切ですか。

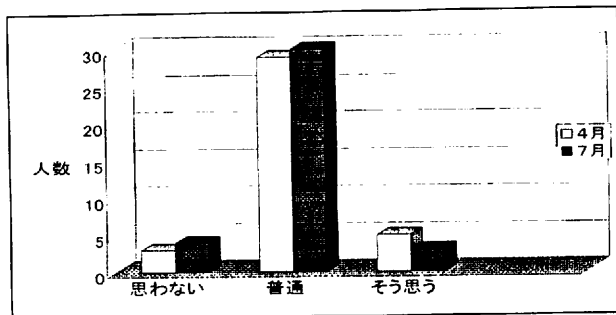
	思わない	普通	そう思う
4月	2	24	11
7月	4	23	10





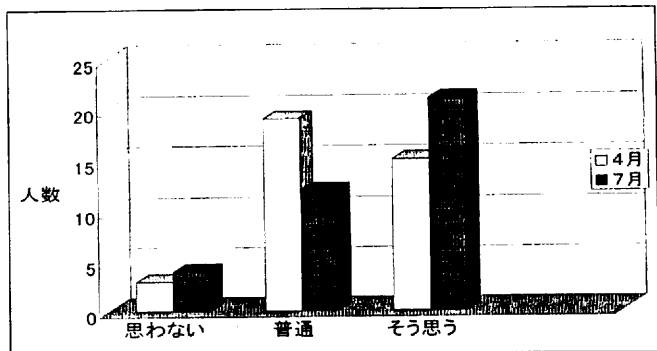
5. あなたは、クラスの人みんなに親切ですか。

	思わない	普通	そう思う
4月	3	29	5
7月	4	30	3



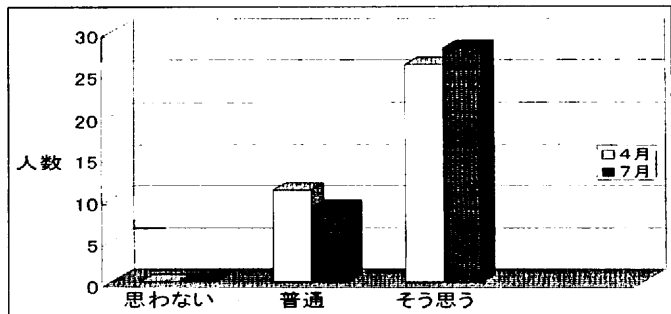
6. あなたは、クラスの友達になんでも気軽に話せますか。

	思わない	普通	そう思う
4月	3	19	15
7月	4	12	21



7. クラスの一人一人が、いいところを持っているとおもいますか。

	思わない	普通	そう思う
4月	0	11	26
7月	0	9	28



#### 全体として

初めは烏合の衆であった集団が、いろいろな体験や話し合いの中で問6友達になんでも気軽に話せますかの増加が見られる。これは、学級での話し合う雰囲気が出てきていると考える。又学級集団に楽しさを求めている児童が増えているのは、どんな楽しさを求めているのか児童と一緒に話し合っていきたい。要因として、問3, 4, 5を見ると協力はできるが、助け合いの行動が学級全体に浸透してないように思える。

クラスの一人一人がいいところを持っている問7、が増加している。これは、それぞれがよさを認める視点が学級に生まれていると考える。

#### 個人として

学級集団にまだとけ込めない児童が2名いて、今後個別指導を粘り強く支援していく必要がある。又、4名の児童は、4月でのアンケートでは、学級集団になじむのは、時間がかかると思っていたがうまくとけ込んでいる。4名に共通することは、内気な面がある。しかしいろいろな活動や体験の中で友達と関わり充実感や他者理解を通して外に対して安心して行動できるようになったと考える。

## VI 研究の成果と課題

### 1. 研究の成果

本実践では、一人一人の主体性を中心に活動させるために、個々の興味・関心や気づきから活動を展開してきた。その為、活動意欲が高まり課題解決の過程を通して、話し合いや表現を練り上げる活動ができた。また、常によさの視点からいろいろな事に対して、認め合える手だてを行った。

集団活動において、ややもすれば集団全体の成果が優先された場合、個人は集団の中に埋もれてしまうが、本実践では、個人の主体性から生まれた自主性が伸び、その力の結集が、集団の自主的・主体的な活動になったと考える。それぞれのよさを見つけ認めあうことで、個人や集団としての心理機能が、プラスの方向に高まり信頼関係も育んでいる。

#### (1) 自治的・自発的活動を図るということ

##### (作業仮説1)

・事前段階における十分な共通理解と課題意識を高めることができた。その内容として、話し合いの意義や基本的な話し合いの仕方をみんなで共通理解することで、活動の見通しができた。司会団を(計画委員会)輪番制にすることで一人一人が、自分の役割に対してリーダーシップがとれた。

集団目標と個人の活動目標を持つことで計画的、意欲的に活動でき自己評価も適切に行えた。

このように事前段階における十分な共通理解と課題意識を高めることが大切であると考ええる。

#### (2) 個と集団の充実と向上を図るということ

##### (作業仮説2)

・個人の興味・関心から課題解決を進めた為活動が活発化され創意工夫されていた。個々が、思いや願いをこめ発表し活動に対して充実感や達成感を味わい自信も生まれ、集団活動としても主体性を出すことができた。

その自信から自分達のやった活動を代表委員会に提案し、学級から学校へと広がりよりよい学校生活作りに結びつけた。

#### (3) よさを認め合う信頼関係の育成について

##### (作業仮説3. 4)

また、人間関係が十分できていない状況の中で、当面する活動目標の実現のために一致協力して取り組めた。

一人一人の役割を実現するために練り合いの中から工夫や努力が生まれ、その活動を通してお互いのよさを知り発見できた。そのことは、よさの視点から友達との関わりを通して自己理解へとなり相互理解ができ、集団の中で成長することができた。

活動のほとんどを子どもたちの主体的な活動に任せるようにした為、「この会」を成功させようとする思いや願いが活動意欲を高揚させた。

また、帰りの会において1日のうちで友達のよかった点や助かったことに関して発表しカードに記録して個々のポストに残した。その為、日々の生活の中でよさを見つけ認め合うプラス思考が身についてきたと考える。活動の中でも短時間で気づけるようになってきた。

このようにして、徐々に信頼関係を育て築いている。

### 2. 今後の課題

(1) よさを認め合い協力することは深まった。今後は、相手の立場を認めるだけでなく、相手の立場になって一緒に考え、一緒に行動できる助け合いの実践力をもった児童に高めていきたい。

(2) 話し合い活動の題材をもっと身近かな生活からも題材にして、日常生活にも生かしていきたい。

### 3. おわりに

研究を進めるにあたってイメージとして頭にはあるが、具体的に表現することがなかなかできなかった。今まで勉強不足だったことをつくづく思い知ら

された。しかしながら、研究所のみなさんが、教えてくれたり応援してもらい、日々充実した、研修となりました。

研修の機会を与えて下さいました、浦添市教育委員会及び関係機関の皆様、並びに宮里政和校長先生をはじめ港川小学校の先生方、に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり、本当に親身になって御指導くださりました新城所長、池田係長、与古田指導主事、同期の研究員の先生方に厚くお礼申し上げます。

〈参考・引用文献〉

- ・文部省 『小学校学習指導要領』
- ・文部省 『小学校学習指導要領』 特別活動
- ・文部省 『小学校学習指導要領解説』 特別活動
- ・文部省 『新しい学力観に立つ特別活動  
の授業の工夫』 特別活動
- ・宮川 八岐著 『個を生かす集団活動と学級文化  
の創造』 東洋館出版
- ・宮川 八岐著 『主体的に生きる力を育てる  
学級活動と学級経営』 東洋館出版
- ・伴 貞男編 『学級活動研究授業のモデル指導  
案と展開』 明治図書
- ・熱海則夫，高岡浩二，高橋哲夫著  
『5・6年生の特別活動』 国土社
- ・岸田 元美著 『学級話し合い活動の指導方法』  
明治図書
- ・宇留多 敬一著 『学級活動の理論と展開』  
東洋館出版
- ・人間教育研究協議会編  
『教育フォーラム・振り返り自己評価』 金子書房
- ・教職総合特集 『新学級経営読本』 教育開発研究
- ・鋸持 勉著 『生きる力を育てる学級経営』  
明治図書
- ・有田 和正著 『新しい学級づくりの技術』  
明治図書
- ・田中 祐次著 『ソシオメトリックテストの  
理論と実際』 学習研究社
- ・浦和市立教育研究所 『個性を生かす学習指導の  
研究』 平成5年度教科等研究紀要